那覇市ちゃーがんじゅう課
受付
-4. 3. 24
福祉部

令和３年度　サービス評価

「総　括　表」

小規模多機能ホーム寄宮

那覇市ちゃーがんじゅう課
受付
-4.3.24

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人おもと会	代表者	石井　和博
事業所名	小規模多機能ホーム寄宮	管理者	稲嶺　達男

法人・事業所の特徴	当施設の特色は、公共の公園が隣接しているため、四季折々の花が満喫できる事です。天気の良い日には、散歩に出かけると地域の方々とも触れ合うことができます。また近隣には保育園があり、園児たちの声で毎日のように賑わっています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	3人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	6人

項　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	・職員への自己評価のあと、職員から一言コメントを集め、それをサービス評価の出席者に見てもらうことで、どのくらい意見が反映されているかなどを確認してもらう.	・新しい職員の参加や自己評価回数を重ねてきたことにより、色々な意見が出て意識が高まっていることを感じた。	・15名全員のスタッフが個別評価を実施、12名の事業所自己評価への参加取り組みが見られた。 ・評価では、具体的なっていないところが見られる。改善が必要。	・職員の意見が5W1Hに基づいて、具体的な改善計画が作れるようになる
B．事業所のしつらえ・環境	・継続し、建物廻りの美化活動やデイルームへの飾り付けを行う.	・職員が積極的に美化活動に取り組んでくれた。地域の方々から建物廻りが明るくなって良かったとの意見もいただいた	・コロナ禍や複合建物という点で、入りづらいと感じる。	・イルミネーションを設置し、利用者や家族、地域の方々から意見書に意見や感想を書いてもらい、次に生かせるようにする
C．事業所と地域のかかわり	・晴天に駐車場で体調に考慮しながら、車の交通の観察や保育園の様子を窺ったりして、認知症の方でも地域を知ることができる。 ・地域の方々へ挨拶が継続してできるように接遇について勉強会を行う。	・10月には駐車場で就業体験の学生と職員が利用者を前にし、三味線やエイサー・パルクールを披露した。近隣の方々や保育園児も観覧された。 ・接遇の研修を毎月行った。	・地域ケア会議などに参加し、地域の困りごとなどを確認している。 ・次年度の運営推進会議で積極的に報告を行うことで、事業所評価などでわからなかった点がわかるようになる。	・地域の方を地域交流スペースへ招いて、相談ができる会を開き、話を伺ったり意見を頂く。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・行事の年間計画を立て、地域と関わりを持てるようにする。	・利用者が住む地域の包括支援センターと協働して、利用者が継続して暮らしていけるよう話し合いを行った	・利用者以外の近所の心配な方に事業所は対応してくれて助かっている。 ・次年度の運営推進会議で積極的に報告を行うことで、事業所評価などでわからなかった点がわかるようになる。	認知症の方を介護されているご家族・将来介護する可能性があるご家族を対象にした介護教室などに参加をする。
E．運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議で地域の行事活動等のお知らせする十分な時間を作る。 ・小規模寄宮職員も参加メンバーとなり意見を出せる会議にする。 ・運営推進会議に民生員さんが参加してもらえるように声掛けする。	・新型コロナウイルス感染症予防の為、運営推進会議の開催方法として『職員のみで開催』することが多かった。そのため意見を頂ける機会が少なかった	・運営推進会議で積極的な報告が必要である。	・テレビ電話などオンラインを活用した運営推進会議も開催できるようにする。 ・地域の困っている方の事例を出して相談を行う。 ・運営推進会議で積極的に報告する。

F．事業所の 防災・災害対策	・防災講習を受講し、防災計画を運営推進会議で配布する。 ・備蓄のストック表を作成する。	・備蓄には冷凍食品も含まれており、缶詰等が多くあった方が望ましいと意見があった。 ・電池やカセットコンロなどの備蓄品が不足しているのがあった。	・新型コロナウィルス感染予防のため、防災訓練が建物の事業所間のみの開催となった。	・缶詰や乾燥めん・電池などの備蓄品を増やす。備蓄品は日常で使用して、その都度買い足していくローリングストック法とする。